

豊田市の水辺愛護会

発行：豊田市矢作川研究所

471-0025 豊田市西町 2-19

豊田市職員会館 1 階

TEL：0565-34-6860 担当：吉橋

2017年1月発行

「皆で御船の
環境保持を！！」

御船せせらぎ広場愛護会

お邪魔しました！活動日訪問記 2016年9月4日(日)

豊田市の御船川支流に山田川と
いう小川があります。その岸边の、
治水を兼ねた河川敷公園「山田川
緑地」のなかに「御船せせらぎ広
場」があります。

気持ちよく刈られた芝生と広葉
樹、なだらかな起伏、木の橋など
が訪れる人を迎えます。また、山
田川の段差（落差工）は一部、石

組で作られていて、一般的にみら
れる垂直のものよりもずっと自然
に近い形になっています。

このビオトープ部分は「バイオ
ガーデン」として整備されたもの
です※1。自治区の有志も堤防治い
に205本の桜を植えました。今で
は桜の名所として、町民憩いの場
となっています。

その植樹をきっかけに2000(平
成12)年に設立されたのが「御船
せせらぎ広場愛護会」です。

御船せせらぎ広場愛護会は人数
が多いのが特徴です。2015年の調
査では、市内の愛護会の平均人数
が34人であるのにくらべ、御船せ
せらぎ広場愛護会は113人と最も
会員数が多く、各世代がそろって





<御船せせらぎ広場愛護会>
 結成…2000(平成12)年6月
 会長…山崎良兼氏 会員113人
 (2015(平成27)年10月時点)
 活動日…大勢での活動は年4回
 活動地…御船せせらぎ広場ほか
 活動地面積:
 御船せせらぎ広場は約3,000㎡

いました。さらに今年は9人増えて122人だそうです。会員数が年々減っている愛護会が多い中で、このことは特筆すべきことでしょう(参考:2003年度85人)。活動開始から15年。会は豊田市から篤行功績者として表彰されました。

活動地は4か所、この広場と旧三河御船駅まわり、前田公園の一部、そして豊田市の指定文化財である「シラヒゲソウ」の自生地です。シラヒゲソウ自生地は少人数で整備しており、他の3か所を年4回、多くの会員で整備します。

9月の活動日に訪問させていただきました。活動は前日の夕方と当日の朝、部落放送で住民に知らされます。そして当日、朝8時開始のその20分前には、既に20人近くの会員が談笑し、和気あいあいとおしゃべりを楽しんでいます。

その間にも続々と会員がやってきて、作業が始まるころには43人の参加者が集っていました。

山崎良兼会長(63歳)から朝のご挨拶があり、その後、鎌と刃が支給されました。会員はどちらか希望のものを選び、受け取りました。集合写真を撮ったあと、そのまま残って広場の草刈りをする組と、旧三河御船駅まわり組、前田公園組に分かれました。

御船せせらぎ広場組は、ひざたけ程に伸びた草を刈り払い機で刈る人、熊手で集める人、そして鎌で雑草を抜く人にわかれて活動を始めました。各自お互いの様子を見ながら黙々と作業を進めます。

旧三河御船駅まわりでは、線路ぞいの斜面、フェンスまわりなどを刈り払い機で丁寧に刈っています。御船こども園が近くにあり、線路脇の散策路は子ども達にも親

しまれているそうです。

前田公園でもみなさんが刈り払い機を肩に一步一步、前に進みながら草を刈っています。芝生の広場と散歩道、雑木林のなか、それぞれ黙々と作業に励んでいました。

会員の方々にお話を伺いました。—長年活動を続けている理由はなんですか?

「もう80歳超えてるけどねえ。みんなの顔見ると元気がでるからがんばってます。歳が多いものでゆっくりね。」

「惰性ですよ(笑)。みんなやってくるから足抜きできないものでねえ(笑)」

「地域の人と顔見知りになる。」

「きれいにしとくと散歩してる人も気持ちいい。」

「動けるうちは来るよ。一人で生きてるわけじゃないでね。」

「強制じゃないでいいよな。」





—なるほど。ご自身の意思で、地域のため、「みんな」の目も気にしつつ（笑）、続けておられるんですね！お茶を配られるぐらいしか見返りはないようですが…。

「ほれでいいだ。鎌をくれたり刃をくれたり、燃料もくれる。」

—やめようと思ったことはないですか？

「ない！」「でも（歳をとって）みんなに迷惑かけたらいかんな…」

—ところでこの活動は夏暑く、冬寒く、大変だと思うのですが、どんなご苦労がありますか？

「別にご苦労なんてあーへん。」

「でも役やってる人は大変だ。」

—ではどんな楽しみがあるでしょうか？

「終わった後のコミュニケーションが楽しいね。情報交換を楽しんでる。」

「いろんなつながりがある。みんな

なで一杯やるのも楽しい。この地区は有志が集まって花見会、お月見会をしたりするんだよ。」

—それは楽しそうです！最後に未来に向けた思いはありますか？

「若い人に興味をもってもらいたいね。」

「組織としていかに維持していくか、マンネリ化しないように…。

そういう視点をみんなが持つと組織としてより固くなるね！」

豊田市矢作川研究所には、2007年の川会議^{※2}「市民が描く矢作川～河畔林を考える～」で御船せせらぎ広場愛護会の方が発表をしている写真があります。ポスターには、「町名を冠した川が悪臭漂うドブ川では御船の名折れ！安心して水遊び出来る清流をとりもどそう！」という力強いスローガンとともに、御船川水系の浄化活動が

書かれています。自治区と共に竹炭を入れるなどの活動で「平成15年：山田川の悪臭が消え、ヘドロが減った。平成16年：山田川のヘドロが消えた。平成18年には「御船川のヘドロが消えた…」と。

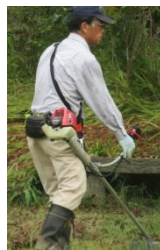
山崎会長も「山田川は“どぶ川”だった」、しかし今では「川はきれいになったなあ。魚がすごく増えた」と感慨深げです。「歴代の努力を引き継ぎつつ、さらに事業展開もしたい」とのことでした。

また、山田川に注ぐ「樋田川」ではホタルの保全活動をする会もあり、地域の熱意を感じます。

川と川辺を次世代につなぐ活動を、楽しみを織り込みながら活動しているのが印象的な御船せせらぎ広場愛護会でした。

※1.財団法人リバーフロント整備センター（現公益財団法人リバーフロント研究所）が日本宝くじ協会の助成を受けて、水辺自然環境施設「バイオガーデン」として豊田市に寄贈したもの。1998年。

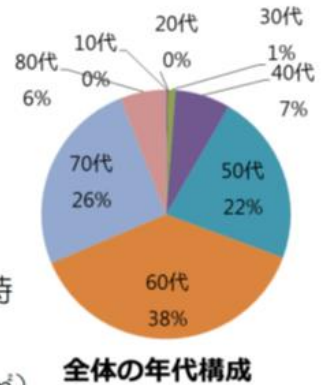
※2.矢作川「川会議」実行委員会主催



豊田市の水辺愛護会について

自治区の有志で組織（原則1自治区1団体）。市に指定された範囲内において活動を行う。

- 19 団体、656 人。（毎年登録）
- 一団体 12 人～113 人（平均 34.5 人）
- 男性 86%、女性 14%（以上、2015 年 10 月現在）
- 活動延べ人数：4,570 人／年（2014 年度・会員 656 人）



活動頻度：月1～2回程度 土曜日又は日曜日の午前中
 活動内容：河畔の竹木の間伐、草刈り、ゴミひろい、適切な維持管理についての知識向上積極的な活動人員の確保、など
 面積（上流5団体除く14団体）：200,200㎡（平均14,300㎡）



活動の成果

- 「ながめ」が良かった
 （川面を見られるようになった。河畔林が見通せるようになった。対岸へのながめ、対岸からのながめがよかった。）
- 川までたどり着けるようになった
- 人と人とのつながりが昔のように強まった
- ふるさとに自信が持てるようになった 等

活動の課題

- 会の継続性への不安（高齢化と人手不足）
- 目標・将来像・方向性を考える場が少ない
- 作業のマンネリ化で「やる気のもと」がない
- 河畔林の恵みという意味の「見返り」がない
- 愛護活動は生物の生息環境から見て適正か
- 地域住民・市民の関心が低い 等

